

# 全ての生徒の学びを保障するオンライン授業の実施について

羅臼町立知床未来中学校 学級数5 (校長 滝 泰英)

## I 本実践の概要

新型コロナウイルス感染症の影響等による臨時休業や出席停止等のため、やむを得ず登校できない生徒や不登校生徒を含めた全ての生徒に対し、1人1台端末を最大限活用して学びを保障するため、「未来中常時オンラインシステム」の確立に向けた体制を整備した。また、オンライン授業実施に向けて内容を工夫するとともに、今後の改善・充実を図るため、各教職員の取組を共有した。

## II 実践の内容

### 1 「未来中常時オンラインシステム」の確立に向けた体制整備

「学びを止めない」「心を近づける」ためのICTの活用においては、生徒が1人1台端末を持ち帰り、いつでも授業等に参加できる体制を整備する必要がある。本校では、校務分掌に既存の校務運営委員会と兼ねて設置した「ICT学習支援委員会」が中心となって協議し、「未来中常時オンラインシステム」として、各教室から家庭に授業を配信することができる体制を整備することとした。

また、取組については、「Web会議ツールZoom」を活用し、各学年に固定ID及びパスワードを割り当て、各家庭に通知するとともに、職員室にある各学年のホスト機を並べて配置することにより、全ての生徒の参加状況を一目で把握できるようにした。

オンライン授業の推進に当たっては、教師と黒板の2つを常に映すようにし、教師の発問や指示及び学習内容をいつでも生徒が把握できるようにした。

### 2 オンライン授業実施に向けた取組の工夫

端末を通じて様々な交流を行うことができるよう、映像だけでなく、「Web会議ツールZoom」のチャット機能を用いた交流や「Googleフォーム」による悩み相談等も実施するとともに、家庭学習で復習や振り返りを行うために、YouTube「知床未来チャンネル」を開設し、授業動画を配信した。

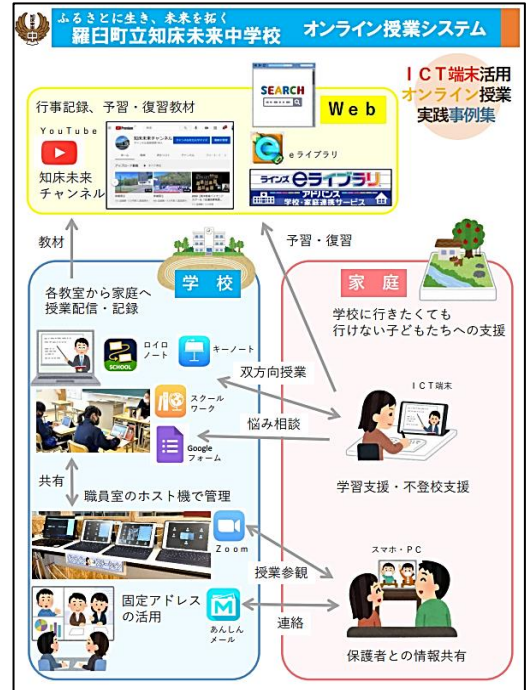
また、不登校生徒にとってもオンライン授業に参加しやすい環境をつくることのできるよう、不登校生徒には本人だと分かりにくい名前前で参加してもよいことを伝えるなどの支援を行った。この工夫により、不登校生徒にとって、オンライン授業へ参加することへの抵抗感が小さくなるとともに、継続的に参加することを通して、学校復帰に対する意欲が高まった。

### 3 学校全体での成果の共有

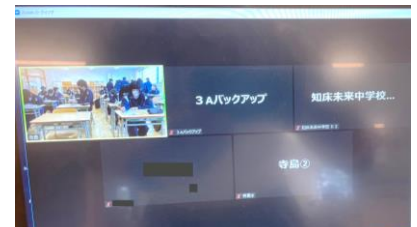
各教職員の取組を学校全体で共有するため、校内で「オンライン授業実践事例集」を作成した。事例集は、具体的な手順を示すとともに、「実践してみてもよかったこと」「うまくいかなかったこと」をまとめ、今後の取組の改善につなげるようにした。

## III 実践の成果 (○) と課題 (●)

- 「未来中常時オンラインシステム」の体制整備やオンライン授業実施に向けた取組等を進めたことにより、やむを得ず登校できない生徒や不登校生徒を含めた全ての生徒に対して学びを保障する取組を充実することができた。
- オンライン授業の実施による課題を共有するとともに、日常の授業から1人1台端末を活用した指導の充実を図る必要がある。



【未来中常時オンライン授業システム構造図】



【オンライン授業に参加している様子】

この事例集は、Zoomでの授業の様子を詳しく紹介しています。授業のタイトルは「単元・題材名 好きになる野菜の調理」です。授業の流れは以下の通りです。

- 【手順①】** 課題・トマトときゅうりを洗ったレシピをインターネットから調べ、作りたいレシピを決める。
- 【手順②】** ロイロノートにレシピの手順をまとめ、その後、自宅で実際に作り、写真を撮る。
- 【ポイント】** いろいろなレシピを比較することで、「どれが作れそうか？何が必要か？どんな手順で作業をするか？野菜の切り方は？」など、自分で考えて進めていました。
- 【手順③】** 写真を貼り付け、作った感想を書き、レポート完成。

実践してみてもよかったこととして、「生徒自身が様々なレシピを比較するなかで、一つの野菜にも数々の調理法があることを学ぶことができ、生きる力になったと思う。」と述べています。一方、うまくいかなかったこととして、「インターネットから拾った画像でレポートを提出しようとした生徒がいた。(想定内)」と述べています。

【オンライン授業実践事例集】